

建築・住宅・都市に係る研究シーズの実用化・新技術開発に挑戦する企業や大学等を応援します！

2022年冬 公募予定。公募テーマに関するご意見を募集します！

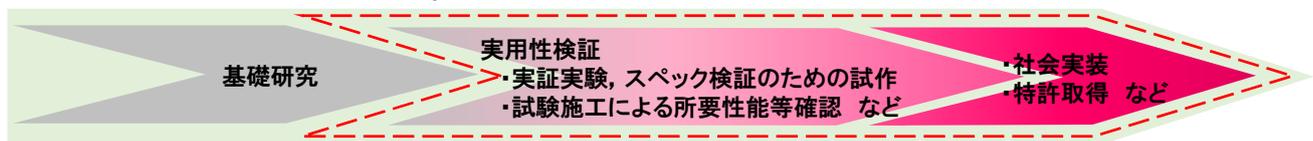
- ✓ 「構造」「施工」「環境設備」「材料」「防火」「防災」「まちづくり」など予めテーマを設定して公募、審査を実施し、技術提案の実用化を支援します。提案は共同、1者のいずれでも可能です。
- ✓ 1テーマにつき最長5年間、最大5億円までの研究開発を建築研究所から企業等に委託します。
- ✓ 研究開発費は、進捗に応じて先払いします。
- ✓ 研究開発終了後に研究開発費を返済[一括または割賦]していただきます(補助金ではありません)。

※ 事業制度の詳細は、こちらをご覧ください

<https://www.kenken.go.jp/japanese/contents/kakushinjigyou/index.html>

対象とする研究開発フェーズ

「実証実験・実大実験」や「社会実装（市場戦略・特許取得）」の開発フェーズが支援対象となります（下図、赤破線部分）。



公募研究開発テーマについて

<昨年度のテーマ（継続予定）>

■ 新素材を用いた建築材料・部材の耐久性、耐震性の向上技術

例) 建築物の長寿命化・老朽化対策等を図るため、新たな素材等を利用した建築材料・部材の耐久性、耐震性を向上させる技術

■ 災害対応に資する建築物の挙動把握技術

例) 建築物の災害対策や適切なメンテナンスに寄与するため、センサー等より建築物の挙動を効率的に把握する技術

■ 建築物の基礎・杭・地盤改良技術

例) 狭小敷地や既存の構造物直下等の施工に制限を伴う箇所でも適用可能とする地盤改良工法技術

■ 建築物の生産性向上に資する技術

例) 工期短縮、設計・施工管理の効率化等に資する技術

■ 大型木造建築物の普及に資する技術

例) 令和元年改正建築基準法で合理化された、大型木造建築物に係る基準を適用した建築物等の普及に資する技術

<上記のほか、ニーズに即したテーマの追加を検討いたします>

(一例) ■ DXを用いた建築物の生産性向上に資する技術

⇒ BIM, 遠隔臨場等を活用したエンドユーザーの特性に応じた建築生産におけるDX普及に資する技術

※ **公募テーマに関するご意見・ご相談（制度へのご質問を含む）は、12月末までに事務局にお問合せください。**

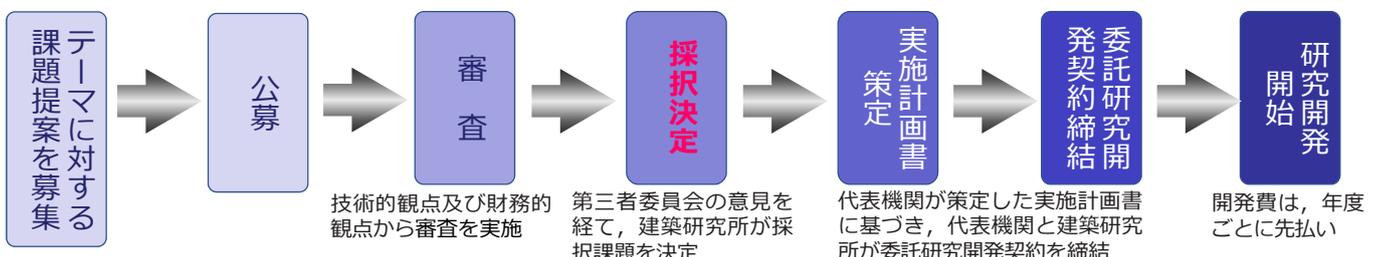
国立研究開発法人建築研究所 革新的社会資本整備研究開発推進事業事務局

E-mail : brain@kenken.go.jp

※お問い合わせの受付はメールのみとさせていただきます。

予定スケジュール

令和3年11月頃～ ※スケジュールは変更になることがあります
令和4年 1月頃 令和4年6月



事項	内容	備考
申請者に関する基本要件	<p>a. 日本国内に法人格を有すること。</p> <p>b. 当該技術分野に関する技術開発力等の技術基盤を有すること。</p> <p>c. 研究開発等の成果を実施できる体制があること。</p> <p>d. 目標達成後、返済できる財務基盤を有すること。</p> <p>e. 経営基盤として、原則として以下に該当しないこと。</p> <p>1) 直近3期の決算期において3期連続して経常損失を計上している。</p> <p>2) 直近3期の決算期において1期でも債務超過となっている。</p> <p>3) 直近3期の決算報告書がない。</p> <p>4) 破産、再生手続開始、特別清算又は破産手続開始の申立てを受けている又はしている等。</p> <p>(代表機関が公募開始日において設立日から20年以内で、かつ未上場又は新興市場のみ上場している企業の場合)</p> <p>f. 経営基盤として、原則として以下に該当しないこと。</p> <p>1) 日本国内に法人格を有すること。</p> <p>2) 当該技術分野に関する技術開発力等の技術基盤を有すること。</p> <p>3) 研究開発等の成果を実施できる体制があること。</p> <p>4) 破産、再生手続開始、特別清算又は破産手続開始の申立てを受けている又はしている等。</p>	<p>本事業において、新興市場とは、</p> <p>・国内においては「マザーズ」、「JASDAQ」、「セントレックス」、「アンビシャス」、「Q-board」をいう。</p> <p>・国外の市場については、ロンドン証券取引所の「AIM」等を想定しつつ、個別に判断します。</p>
達成目標	<p>応募時に、実用化のために最低限必要な技術的水準の目標(達成目標)を設定していただきます。</p> <p>(例)・実証実験やスペックを検証するための試作物の製作を完了する</p> <p>・試験施工で所要の性能と安全性が確認される</p>	<p>・左記の見通しが立った場合、目標達成とします。</p>
返済義務	<p>■目標を達成した場合: 研究委託費支払額の全額を15年以内の割賦返済又は一括返済していただきます。</p> <p>※ 利息は、いただきません。</p> <p>※ 最大5年間の返済猶予期間の設定が可能です。</p> <p>※ 返済における傾斜配分の設定が可能です。</p> <p>■目標未達の場合: 研究委託費支払額の一定割合を一括返済していただきます。</p> <p>・3年目の審査で中止と評価された場合: 既支払額の30%に相当する額。</p> <p>・研究終了時の審査で中止と評価された場合: 既支払額の50%に相当する額。</p> <p>※利息は、いただきません。</p> <p>■自己都合による中止: 研究委託費支払額の全額を一括返済していただきます。</p> <p>※ 利息は、いただきません。</p> <p>■その他</p> <p>・委託契約時に、契約書に研究委託費の返済に関する条項を設定します。</p> <p>・研究開発終了後、額を確定させ、改めて、返済に関する契約を交わすものとします。</p>	<p>・「最大5年間の返済猶予期間」を含めて15年以内とします。</p> <p>・実施期間+返済期間(当該返済猶予期間を含む)の合計が20年を超えないものとします。</p> <p>・目標未達の場合、以後の研究開発実施はできません。</p>
担保／債務保証	<p>・原則として、委託研究開発契約締結時に委託費総額の10%に相当する担保又は債務保証の設定を求めます。さらに、代表機関の財務状況によっては、採択条件として、委託研究開発契約締結時に委託費総額に相当する担保又は債務保証の設定を求める場合があります。</p> <p>・分割返済の場合、原則として委託費全額に相当する担保／債務保証の設定が必要です。具体的には、法人所有の不動産、有価証券又は親会社や銀行等による連帯保証となります。</p> <p>・委託費全額の1/2を上限に委託期間中にお願いした特許等の知的財産権を充当することも可能です。</p>	
研究開発成果(知的財産権の取り扱い)	<p>研究開発成果に係る特許権や著作権等の知的財産権については、産業競争力強化法(平成12年法律第44号)第17条に規定される要件を満たすことを前提に、受託者に帰属します(日本版バイ・ドール規定)。</p>	
成果利用料	<p>研究開発終了後、研究開発の成果を利用する製品又はサービスについて、その売上に応じた成果利用料を建築研究所に支払うものとします。</p> <p>・成果利用料は製品またはサービスに対応する売上の1%とします。</p> <p>・売上の範囲等については申請時に提案をしていただき、建築研究所と協議の上、委託契約時に設定させていただきます。なお、成果利用料の支払い契約は、研究開発終了後に行います。</p> <p>・支払期間は、目標達成確認後15年とします。</p>	
審査方法・視点	<p>審査の方法及び視点は、以下のとおりです。</p> <p>1. 形式審査(申請者に関する基本要件の確認)</p> <p>2. 書面審査、面接</p> <p><審査の視点></p> <p>a. 研究開発の必要性／ b. 研究開発の革新性／ c. 研究開発計画の妥当性／ d. 事業化の見通し／ e. 財務等審査</p>	<p>・審査後、建築研究所との協議で合意できた課題を建築研究所が選定します。</p> <p>・合意できない場合は辞退とみなします。</p>